

神の愛

大管長会第二顧問

ディーター・F・ウークトドルフ管長

愛は、わたしたちの信仰の尺度となり、従順を促し、弟子としての度合いを測ってくれます。

末日聖徒イエス・キリスト教会は発展を続けており、世界中でさらによく知られるようになっていきます。固定観念から教会と教会員を否定的に見る人は常にいますが、大半の人々はわたしたちが正直で勤勉であり、社会に貢献していると考えています。さわやかな身だしなみの宣教師、愛にあふれた家族、お酒もたばこもたしなまない友好的な隣人というイメージを抱いている人もいます。また、毎週日曜日に教会へ行って3時間の集会に出席し、互いに兄弟姉妹と呼び合う人たちだとか、子供たちは語りかけてくる小さな川やポップコーンのなる木の歌を歌い、太陽の光のようになりたがっていると考えられているかもしれません。

兄弟姉妹の皆さん、これらの中に、主の教会の会員であり、イエス・キリストの弟子であることを示す特質が挙げられているのでしょうか。6か月前の総大会の後、わたしはずっとこの問いや類似の問いについて深く考えてきました。その結果として浮かび上がってきた考えや思いをここで皆さんと分かち合いたいと思います。では、最初の問いです。

イエス・キリストの真の弟子になるにはどうしたらよいでしょうか。

救い主御自身、次のような深遠な宣言で答えておられます。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」¹これが真の弟子になるということの核心となります。キリスト・イエスを受け入れる者は、主とともに歩むということです。²

しかし、これは問題だと感じる人もいるでしょう。すべきこと、すべきでないことがあまりにも多くて、自分の行動を吟味するだけでも大仕事になってしまう場合があるからです。悪気はないのですが、神から靈感を受けることなく、神聖な原則に人の考え出した説明を付け加えて神の真理から純粋さを奪い、問題をいっそう複雑にしてしまう人々がいます。ある人が良い考えを持っていて、それは本人にとっては都合がいいものかもしれませんが、その考えが期待されることとして根を伸ばし、定着してしまうことがあります。そして次第に、永遠の原則が「良い考え」という迷路の中で見失われてしまうのです。

これは救い主が当時の宗教の「専門家」に向けられた批判の一つです。ささいな事柄に固執して、もっと大切な事柄を見逃していることを主は叱責されたのです。³

では、これらの「もっと大切な」事柄に目を向け続けるにはどうしたらよいでしょうか。わたしたちの生活、考え、行動に優先順位を付けるのに役立つ指針はあるのでしょうか。

これについても、救い主は示唆しておられます。いちばん大切な戒めは何かと問われたとき、ためらわずこう答えられました。「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』これがいちばん大切な、第一のいましめである。」⁴ この戒めは、自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよという第二の大切な戒め⁵とともに、この世と来世にわたり、わたしたちの人生だけでなく主の教会がこの世と永遠にわたって進むべき道を示す指針です。

愛は大切な戒めです。ですから愛は、家族、教会の召し、生活におけるわたしたちのあらゆる行動の中心とならなければなりません。愛は人間関係や家族関係の問題や争いを修復する治療薬です。家族、地域社会、国を一つにするきずなです。愛は、友情、寛容、礼儀、尊敬の基となる力であり、不和や憎しみを乗り越える源です。愛は、この上ない喜びと神聖な希望によって生活にぬくもりを与えてくれる炎です。わたしたちの行動と言葉は愛に満たされていなければなりません。

イエス・キリストがわたしたちを愛しておられるように愛するという意味をほんとうに理解するとき、混乱は消え去り、御心にかなった優先順位を付けられるようになります。キリストの弟子としての生活はいつそう喜びにあふれ、人生に新しい意味が生まれます。天の御父との関係はさらに深まり、従順は重荷ではなく、喜びになるのです。

なぜ神を愛する必要があるのでしょうか。

永遠の御父なる神が第一の大切な戒めをお授けになった理由は、わたしたちが神を愛することを、神が必要となさっていたからではありません。わたしたちが神の御名を軽んじ、否定し、あるいはたとえ汚しても、神の力と栄光が傷つけられるわけではありません。わたしたちが神を受け入れ、認め、たたえるかどうかにかかわらず、神の影響と支配は時空を超えて広がるのです。

神はわたしたちに愛してもらうことを必要としておられません。むしろ、わたしたちに神を愛する必要があります。

なぜなら、何を愛するかによって、何を求めるかが決まるからです。

何を求めるかによって、何を考え、行うかが決まります。

何を考え、行うかによって、現在と将来の自分が決まります。

わたしたちは天の両親にかたどって造られた神の霊の子供です。このため、わたしたちには非常に大きな愛する能力が備わっています。それは霊的な受け継ぎです。何を、どのように愛するかによって、個人だけでなく、教会の本質が決まってしまうのです。愛はキリストの弟子であることを示す特徴です。

時の初めから、愛は最高の幸福を招くとともに、最大の重荷をもたらしてきました。アダムの時代から今日に至るまで、不幸の原因をたどっていくと、悪を愛する心が見つかり、幸福の根底には善を愛する心が見つかることでしょう。

あらゆる善の頂点に立っておられるのは神です。

天の御父は子供であるわたしたちに、理解をはるかに超えた祝福を授けておられます。御父の指示の下で、偉大なるエホバがわたしたちの住むこのすばらしい世界を創造されました。父なる神はわたしたちを見守り、胸を躍らせる喜びでわたしたちの心を満たし、暗闇に沈むわたしたちを恵みに満ちた平安によって輝かし、貴い真理の露を心に滴らせ、苦境のときにわたしたちを導き、楽しみをともに楽しみ、義にかなった願いを聞き届けてくださいます。

御父は子供たちに、栄光あふれる永遠の命を約束され、わたしたちが満ちみちる喜びにあずかるまで知識と栄光の中で進歩する道を示してくださいました。御父は御自分の持っておられるすべてを与えると約束しておられます。

もしこれらすべてが天の御父を愛する必要がある理由としてまだ十分でないとしたら、使徒ヨハネの言葉から学ぶことができますでしょう。「わたしたちが愛し合うのは、神がまずわたしたちを愛して下さったからである。」6

天の御父はなぜわたしたちを愛しておられるのでしょうか。

皆さんが想像できるかぎり最高に清く、すべてを包む愛について考えてみてください。では、その愛を無限に広げてください。それが、皆さんに対する神の限りない愛です。7

神は人の外見を見てはおられません。8 住まいが城か小屋か、容姿が美しいかどうか、有名か無名か、そういうことは一切気にしておられません。わたしたちは不完全ですが、神はわたしたちを完全に愛しておられます。道に迷い、行き先が分からなくなったとしても、神の愛によって完全に包まれるのです。

神は神聖で清く、筆舌に尽くし難い無限の愛であふれているので、わたしたちを愛してくださいます。神にとってわたしたちが大切なのは、わたしたちが優れた経歴を持っているからではなく、わたしたちが神の子供だからです。神は、わたしたち一人一人を愛しておられます。弱い者、拒絶された者、不器用な者、悲しむ者、挫折した者であっても、御自分の子供たちを皆、愛しておられます。神の愛は非常に大きいので、高慢な者、利己的な者、横柄な者、邪悪な者でさえ愛しておられるのです。

つまり、現在どのような状態であっても、わたしたちには希望があります。どのような苦難や悲しみに遭遇しても、どのような間違いを犯しても、無限の哀れみに満ちた天の御父は、わたしたちが御自身に近づくことによって、御父がわたしたちに近づけるよう願っておられます。9

神に対する愛を深めるにはどうしたらよいでしょうか。

「神は愛である。」10 ですから、わたしたちは神に近づけば近づくほど、愛をいっそう強く感じるのです。11 しかし、この世は幕によって天の家から隔たれ

ているため、わたしたちは肉の目には見えないものを御霊によって求めなければなりません。

時には、天が遠く感じることもありますが、聖文は希望を与えてくれます。「あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば。」12

しかし、一心に神を尋ね求めるには、単に祈りをささげたり、生活の中に神をお招きする言葉を少し述べたりするだけでなく、もっと多くのことが必要です。

「神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることである」13からです。わたしたちは神を知っていると高らかに公言することができます。神を愛していると人前で宣言することもできます。しかし、神に従っていないければ、すべては無意味です。「『[神]を知っている』と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうちにはない」からです。14

わたしたちは神の御言葉に添った思いや行動により、天の御父を愛する気持ちを強めて、その愛を実践します。御父の純粋な愛は、いっそう清く聖なる者となるよう、常にわたしたちを導き励ましています。

御父の純粋な愛はまた、義にかなった道を歩むよう促してくれます。恐怖心や義務感からではなく、神を愛しているのもっと神のようになりたいという心からの願いによって、そのように促されるのです。

そのような行いにより、わたしたちは次のような状態に到達できます。「再び…生まれ、血によって、すなわちわたしの独り子の血によって清くされ〔る〕。それは、あなたがたがすべての罪から聖められ、この世において永遠の命の言葉を享受し、来るべき世において永遠の命、すなわち不死不滅の栄光を享受するためである。」15

愛する兄弟姉妹の皆さん、時折つまづくことがあっても、落胆しないでください。キリストの弟子として常にふさわしいと感じることができなくても、あきらめないでください。義にかなった道を歩む第一歩は、ひたすら努力することです。信じようと努力しなければなりません。神について学び、聖文を読み、末日の神の預言者の言葉を研究し、御父の御言葉に耳を傾け、御父から勧められている事柄を行うという選択をするようにしてください。難しく思えることが、できるようになり、なんとかできそうだったことがやがて習慣となり、完全に身に付くまで努力を続けてください。

どうしたら御父の声を聞ことができるでしょうか。

天の御父に近づこうとするとき、また、キリストの御名により御父に祈るとき、御父はこたえてくださいます。どこにいても語りかけてくださいます。

聖文に記された神の御言葉を読むとき、神の声に耳を傾けてください。

この総大会の間や終了後に、ここで語られた言葉を研究し、御父の声に耳を傾けてください。

神殿に参入し、教会の集会に出席するとき、御父の声に耳を傾けてください。豊かで美しい自然の中で、御霊の静かなささやきの中に、御父の声を聞いてください。

毎日ほかの人と交わす会話に、賛美歌の歌詞に、子供の笑い声に、御父の声を聞いてください。

御父の声に耳を傾けるなら、御父は、キリストの純粋な愛を感じることができる道へあなたを導いてくださいます。

天の御父に近づくとつれ、わたしたちはいっそう聖くなります。そして、聖くなるにつれて、わたしたちは不信仰を克服し、わたしたちの魂は、御父の恵みの光に満たされます。その天からの光によって自分の生活を正すなら、暗闇から出て、さらに大きな光へと近づくことができます。このいっそう大きな光は、聖なる御霊の言い尽くせない教えへと導いてくれます。そして、天と地の間にある幕は薄くなります。

なぜ愛は大切な戒めなのでしょう。

子供たちに対する天の御父の愛が幸福の計画を貫くメッセージです。幸福の計画はイエス・キリストの贖いによって実現するのです。贖いは、人類が知っている最も大いなる愛の表れです。16

ほかのすべての戒めは、愛の原則に基づいていると言われた救い主の言葉は、何と明確でしょう。17 もしわたしたちが偉大な律法に従い、心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして天の御父と隣人を愛することがほんとうにできるようになれば、ほかの多くのことは自然に起きるでしょう。

神の聖い愛は、平凡な行動を驚くべき奉仕へと変えます。聖い愛は、単純な言葉を神聖な聖文へと変えます。聖い愛は、神の戒めに不承不承従う心を喜びあふれる奉獻と献身的な犠牲に変える原動力となります。

愛は、弟子の歩む道を照らす導きの光であり、わたしたちの日々の歩みを命と意義と感動で満たしてくれます。

愛は、わたしたちの信仰の尺度となり、従順を促し、弟子としての度合いを測ってくれます。

愛は、弟子がたどる道です。

神が天におられることを証します。神は生きておられます。皆さんを知って、愛しておられます。心にかけておられます。皆さんの祈りを聞き、心の願いを知っておられます。神は皆さんに対する無限の愛に満たされていらっしゃる。

愛する兄弟姉妹の皆さん、最初に述べた言葉を最後に繰り返しましょう。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることを示す特質とは一体何でしょうか。

心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして神を愛し、自分を愛するように隣人を愛する人として知られるようになりましょう。この二つの大切な戒めを理解し、家族やワード、支部、国、日々の生活で実践するときに、キリスト・イエスの真の弟子になる意味を理解できるようになるでしょう。イエス・キリストの聖なる御名により証します。アーメン。

注

1. ヨハネ 14 : 15
2. コロサイ 2 : 6 参照
3. マタイ 23 : 23 参照
4. マタイ 22 : 37, 38
5. マタイ 22 : 39 参照
6. 1 ヨハネ 4 : 19
7. イザヤ 54 : 10 ; エレミヤ 31 : 3 参照
8. サムエル上 16 : 7 参照
9. 教義と聖約 88 : 63 参照
10. 1 ヨハネ 4 : 8
11. ローマ 5 : 5 ; 1 ヨハネ 4 : 7, 16 参照
12. エレミヤ 29 : 13
13. 1 ヨハネ 5 : 3。2 ヨハネ 1 : 6 も参照
14. 1 ヨハネ 2 : 4。イザヤ 29 : 13 も参照
15. モーセ 6 : 59
16. ヨハネ 15 : 13 参照
17. マタイ 22 : 40 参照